

SFT交流会2024

SPORT
FOR
TOMORROW

スポーツ 国際交流・協力 アクターが集結!

申込〆切
10月22日
(火)

2024年10月25日(金) 14時~18時

無料

@大阪/アーバンネット御堂筋ホール

国際スポーツイベントを契機とした 多文化共生と地域活性化とは？

年に一度のリアル交流会、情報共有や意見交換を行いながら、今後のアクションを一緒に考えます！

第1部 14時~

関西で活躍する団体による
ナレッジシェア

- ・ 一般社団法人国際交流スポーツ協会
- ・ 株式会社ランブリッジ
- ・ NPO法人日本アジア球友団ラリグラス
- ・ 立命館大学 スポーツ健康科学部
- ・ 株式会社アシックス

第2部 15時~

専門家やアスリートと共に
パネルディスカッション

- ・ 一般社団法人カルティベータ 宮嶋泰子 代表理事
- ・ ミズノ 飯塚翔太 陸上短距離選手 (オリンピック メダリスト)
- ・ 同志社大学 遠藤華英 助教
- ・ 日本財団ボランティアセンター参与/文教大学 二宮雅也 教授
- ・ 愛知県アジア・アジアパラ競技大会推進局
- ・ 名古屋市総務局アジア・アジアパラ競技大会推進部

第3部 17時~18時

SFT関係者による出展及び
ネットワーキングタイム

- ・ 公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会
- ・ 公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
- ・ 合同会社CHEZA
- ・ NPO法人YTK Sports
- ・ 桃山学院教育大学
- ・ 一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構
- ・ pa moja
- ・ 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
- ・ 特定非営利活動法人日本アジア球友団ラリグラス
- ・ 一般社団法人A-GOAL

お申込み・問い合わせ

SFT交流会2024



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局
(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

sft.info@jpnsport.go.jp / 03-6804-2776

詳細・最新情報はサイトページからご覧ください

第1部

関西で活躍する団体によるナレッジシェア



余吾由太 氏（株式会社ランブリッジ 代表取締役）

1988年愛媛県出身。高校卒業後、2007年野球独立リーグ愛媛マンダリンパイレーツ入団。約1年半の在籍後、退団。2009年に大阪観光専門学校入学。2010年 総合旅行業務取扱管理者を取得。卒業後は法人専門の旅行会社に5年間在籍。2015年 株式会社ランブリッジを創業し代表取締役CEOに就任。2023年4月1日より総務省管轄「地域力創造アドバイザー」就任。その他、一般社団法人日本車いすカーリング協会理事、公益社団法人日本ホッケー協会事務局特命担当を務める。2022年グロービス経営大学院修士課程修了（経営学修士/MBA）。



山平芳美 准教授（立命館大学 スポーツ健康科学部）

立命館大学スポーツ健康科学部准教授。専門分野はスポーツ国際開発学、スポーツ教育学。広島大学大学院教育学研究科博士後期課程修了（博士（教育学））。JICA海外協力隊（体育隊員）としてカンボジア王国の初等教員養成校での活動などを経て現職。主にカンボジア王国を中心とした、体育科教育やスポーツに関するフィールドワークを継続的に実施。【主な著書】「日本における『開発と平和のためのスポーツ』に関する取り組み：現場・政策・研究の動向に着目して（共著）」「スポーツと国際協力：スポーツに秘められた豊かな可能性（共著）」など。



小林洋平 氏（特定非営利活動法人日本アジア球友団ラリグラス 会長）

2004年にネパール野球ラリグラスの会を設立。現地の野球事務所兼日本語学校「ボカラハウス」の責任者を務めた後、ネパール野球連盟のネパール代表監督も務め、国際大会で監督賞を受賞。2015年のネパール大地震では、復興支援活動に尽力し、文部科学省（スポーツ庁長官）から感謝状を授賞。2021年、NPO法人日本アジア球友団ラリグラスへ改称した際に会長に就任。ネパール野球ソフトボール協会から名誉会員として認定され、アドバイザーを務める。待ジャパン公式サイトの世界の野球コラムなども執筆。大阪で団体職員（CO・OP）として働きながら、日本とネパールの友好促進活動を四半世紀に渡り取り組んでいる。



黄 丹榛 氏（一般社団法人国際交流スポーツ協会 サッカー実行委員長）

1994年6月16日生まれ。2017年に日本に留学し、学生時代より20年間サッカーに携わる。日本サッカー協会のC級コーチライセンスを取得し、サッカーの技術やコーチング能力の向上に尽力。中国のサッカー事業に力を尽くすとともに、日中両国のスポーツ分野での交流と協力を強化する事で、国際的なスポーツ交流を推進、特に異文化協力を通じて中国サッカーの発展に貢献していきます。



井上聖子 氏（株式会社アシックス サステナビリティ部 部長）

2005年アシックスに入社。アシックスとマサチューセッツ工科大学の共同研究プロジェクトの一員として、シューズ1足のライフサイクルでのCO2排出量を業界内で先駆けて算出。現在は、サステナビリティ戦略、サプライチェーンなど環境サステナビリティに関する幅広い分野を推進。

第2部

専門家やアスリートと共にパネルディスカッション



宮嶋泰子 氏（一般社団法人 カルティベータ代表理事・スポーツ文化ジャーナリスト）

スポーツ文化ジャーナリスト。（一社）カルティベータ代表理事。テレビ朝日にてスポーツの番組制作を40年以上にわたり行う。1980年のモスクワ大会から19回の夏の五輪やパラを現地取材。文部科学省中央教育審議会青少年スポーツ分科会や政策評価委員会のメンバーを長年務め、現在は女子体育大学招聘教授を務める。日本オリンピック委員会2016年女性スポーツ賞受賞。現在はWebカルティベータで様々なスポーツ情報を記事やYouTube動画で発信。



飯塚翔太 選手（ミズノ所属 オリンピアン メダリスト（陸上短距離））

2016年のリオデジャネイロオリンピックでは400mリレーで銀メダルを獲得。2017年のロンドン世界陸上では400mリレーで銅メダルを獲得。短距離の個人種目でオリンピック4大会出場は日本人では飯塚選手ただ1人。パリ五輪では陸上選手団の男子主将を務めた。日本選手権では200mで4回優勝。世界ジュニア選手権200mで日本人初の金メダルを獲得したことなどから「和製ガルト」の愛称を持つ。国内だけでなく海外でも陸上競技の普及活動を積極的に行っている。



遠藤華英 氏（同志社大学 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 助教）

同志社大学スポーツ健康科学部助教。専門分野はスポーツ国際開発、スポーツ政策。早稲田大学スポーツ科学研究科博士後期課程修了後、2020年度より現職。主に東南アジアを調査地域として障害者スポーツ政策について調査研究を進めている。2015年度より日本財団バラスポートサポートセンター・パラリンピック研究会に研究員として在籍。そのほか、同志社大学ソーシャルマーケティング研究センターにおいても研究活動を行っている。【主な論文】「後発開発途上国における障害者スポーツ政策の変容に関する研究—ラオス人民民主共和国に着目して—」など



二宮雅也 氏（日本財団ボランティアセンター参与/文教大学 教授）

文教大学人間科学部人間科学科教授。筑波大学大学院体育研究科修了。民間シンクタンク研究員、上智大学嘱託講師を経て、2010年より現職。日本財団ボランティアセンター参与。主な著書に「スポーツボランティア読本」（悠光堂）等。まちづくりやボランティア活動をテーマとして、協働の視点から非営利組織活動のあり方を模索している。専門領域はスポーツ社会学、地域活性化論。



高橋琢也 氏（愛知県アジア・アジアパラ競技大会推進局計画推進課課長）

1996年愛知県入庁。健康福祉や防災行政、また国際芸術祭事業等に携わった後、2023年からスポーツ行政に関わる。



阿部紘典 氏（名古屋市総務局アジアアジアパラ競技大会推進部アジア・アジアパラ大会推進課）

2006年名古屋市入庁観光振興事業などを経て、2024年4月より現職。

第3部

SFT関係者による出展及びネットワーキングタイム



スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）は、日本国政府が推進するスポーツ国際交流・協力事業です。東京2020大会に向けて、「スポーツを通じた国際協力及び交流」や「国際スポーツ人材育成拠点の構築」、「国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援」などに取り組んできました。2022年度からは、東京2020大会のスポーツ・レガシーを継承・発展させるとともに、UNESCOカザン行動計画やSDGsなど、スポーツの力を活用して、持続可能な社会や共生社会の実現に向けて進展している国際的な動向を踏まえながら、スポーツの普及・振興やスポーツを通じた社会課題の解決など、さまざまな活動領域での取組を推進しています。